

標的型攻撃メール訓練付き

情報セキュリティ意識レベル診断

Mind Set for Information Security with Targeted Mail Attack Training

(MSIS/T)

情報セキュリティのマインドセット変革を図るための意識レベル診断

なぜ多くの企業でISMSを整備・運用しているにも関わらず、

「情報漏えい」が起きるのでしょうか？

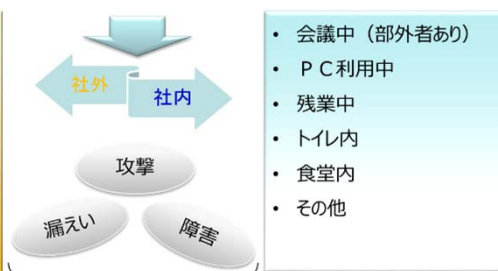
MSIS/Tのコンセプト

多くの組織でISMS等の整備・運用が進められていますが、情報セキュリティ事故は発生しています。その理由は、知識はあっても現実の行動において、**人の意識レベルにばらつき**があり、全員が厳格な運営を行っている組織は稀だからです。スクウェイブ社オリジナルのSCSAフレームワーク(下記参照)は、社員1人1人の本音部分の意識レベルを診断すると同時に企業内の意識レベルを可視化し、対策を打つべき対象と対策の指針を提供します。その上で、**標的型攻撃メール訓練を意識レベルの低い人を中心に実施**します。

《 SCSA (Security Conscious Self Assessment) フレームワーク 》

スクウェイブ社のSCSAフレームワークは、経済産業省、IPA、ISMS、ISACA等の最新動向を踏まえた上で、主要な脅威として、「攻撃」、「障害」、「漏えい」に対する意識レベルをセルフ・アセスメントするため、スクウェイブが独自に定義した意識レベルの状況別調査フレームワークです。

- ・ 自宅他
- ・ 移動中（通勤含む）
- ・ 飲み会中など
- ・ 共用エレベータ内
- ・ 客・取引先
- ・ Cafe等
- ・ その他



状況別にこれらの観点で意識レベルを個別に調査分析します。

定量調査

状況別の**意識レベル**を調査し、**7段階のスケール**で**量化**します。また、サーベイの各質問は、敢えて本人のことではなく、**第三者の行動に対する同意度合い**を問います。こうすることで、本音と建前が明確になり、回答者の本音部分を引き出す*ことができます。

* この手法は心理学分野において、最も精度が高い調査法として認められているものです。



標的型攻撃メール訓練



意識レベルの多寡を判断した上で、相対的に意識レベルが低いグループに絞って、標的型攻撃メールの実地訓練を行います。こうすることで、本来、**過度な訓練が必要のない人に対する余分な工数負担を掛けることなく、より重点的に訓練すべきターゲットに対して手厚い対策を施す**ことが可能になります。結果的に、コストもミニマムに抑えることができます。

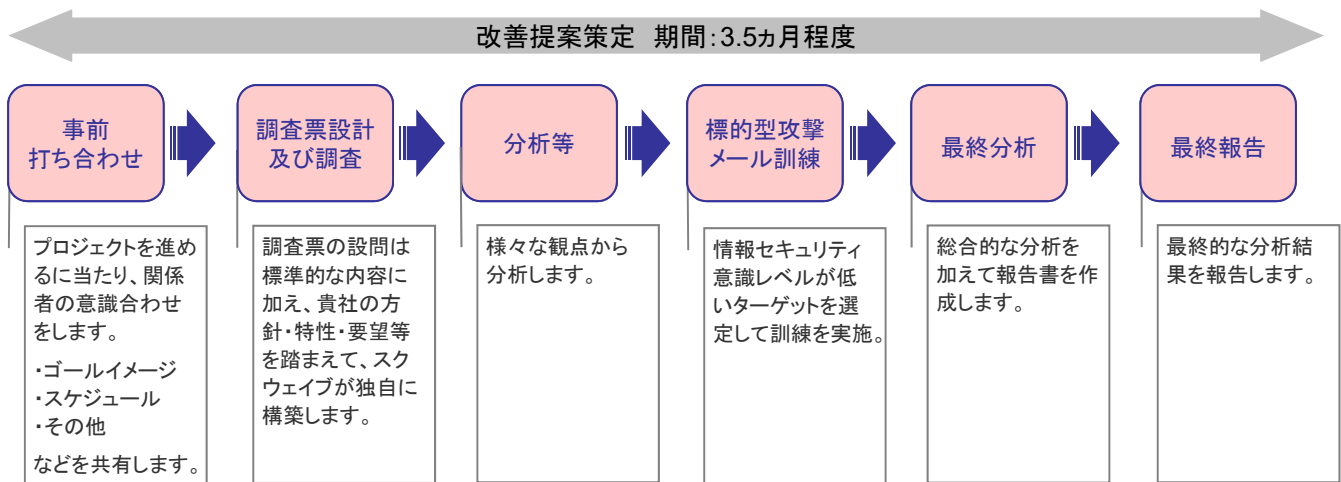
※ 標的型攻撃メール訓練だけでは、情報漏えい全般に対する意識レベルの強弱を組織全体として網羅的に把握出来ません。

MSIS/Tの特徴と導入のメリット

- 1 貴社の状況に即した調査票を作成します。 → 社員が実感を持って回答することに繋がり、他人事や一般論としての回答ではなく、貴社個別の課題について結果を得ることができます。
- 2 社員の意識レベルに働きかけるために、敢えて本人ではなく、第三者の行動に対する同意度を測ります。 → 建前ではなく、本音を精度高く定量化し、ISMSを整備・運用しているだけでは防止できない意識レベルの課題領域を可視化します。
- 3 訓練がより必要な人を対象とした「標的型攻撃メールの訓練」を実施します。 → 社員全体に無駄な工数を掛けることなく、効率的な訓練を実施できるため、結果的にコストも抑えることが可能。

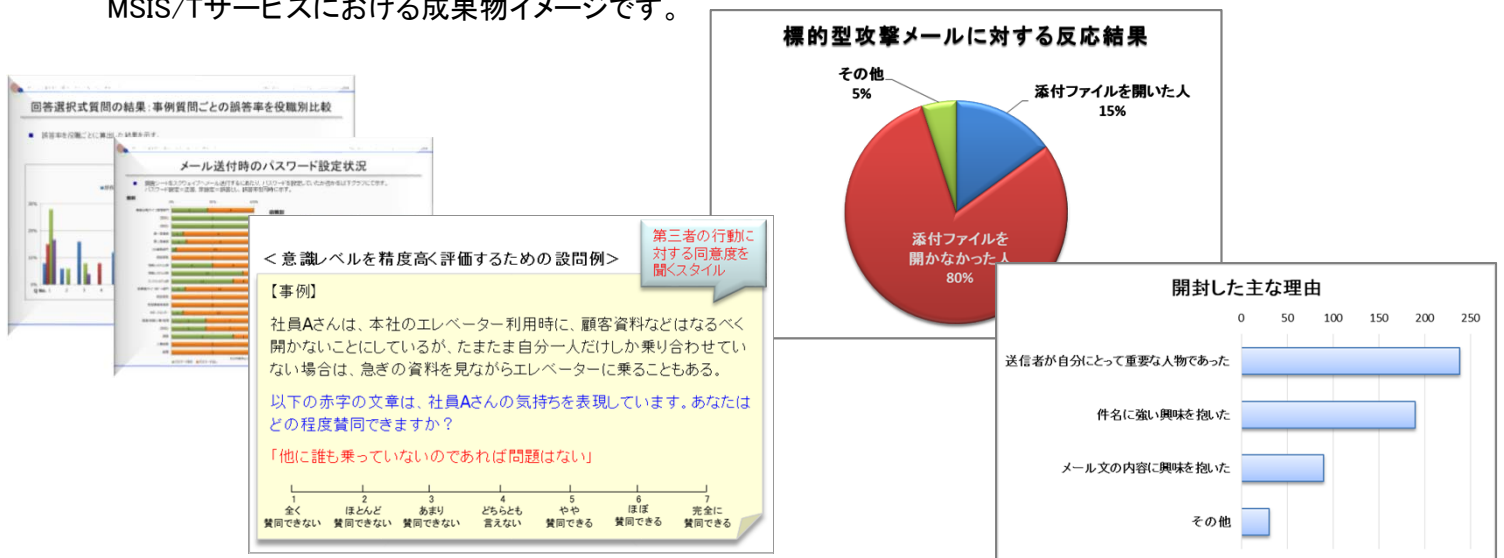
MSIS/T サービスの流れ

MSIS/Tサービスは、下記の流れでサービスを提供します。



MSIS/T 成果物イメージ

MSIS/Tサービスにおける成果物イメージです。



MSIS/T 価格

標準価格：200万円（税別）から

- ※ 上記標準価格は、標的型攻撃メールの対象者が100人までの場合となります。100人を超える場合は、個別見積もりとなります。
- ※ 個人フィードバックレポートは、別途追加見積もりとなります。
- ※ 調査実施先が東京近郊以外の場合、交通費・宿泊費は、実費精算になります。